

科目コード/科目名 (Course Code / Course Title)	その他/演習 J10 (Seminars in Education J10)		
テーマ/サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	教育の歴史を辿る		
担当者名 (Instructor)	柏木 敦(KASHIWAGI ATSUSHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	EDU3710	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

#### 授業の目標(Course Objectives)

春学期で検討した各自の問題意識に基づいて調査・研究を進め、論文にまとめる。

The purpose of this class is for students to conduct research based on their own awareness of the issues discussed in the spring semester, and to compose a paper on the results of their research.

#### 授業の内容(Course Contents)

春学期に行った文献講読や討論の中から、自分なりの課題意識を導き出し、その課題意識を自らのテーマとして深めてゆく。形式としては、個人もしくはグループによる発表形式を繰り返す。発表を繰り返すことで、自らの課題意識、研究方法、表現技術を磨いてゆくことをねらいとしている。

歴史研究がこの演習のスタイルなので、実証的であること、特に文書資料で実証することを心がけてほしい。国立国会図書館、国立公文書館、その他の資料所蔵機関などが web 上で公開している資料を駆使することはもとより、状況が許せば、地域の図書館や教育センターや文書館などに赴くことも検討したい。

なお発表(プレゼンテーション)の技術、発表資料(レジュメ)作成技術についても批評しあう。

各自の発表を文章化したゼミ論文集の作成を、最終的な目標とする。

Students will find their own awareness of issues through the literature readings and discussions conducted in the spring semester, and will further develop their awareness of issues into their own themes. The format of the seminar is a rotation of individual and group presentations. The aim is for students to refine their own awareness of issues, research methods, and expression techniques through repeated presentations.

The style of this seminar is historical research. Therefore, students are expected to raise the level of empirical evidence in their reports, especially through documentary sources.

In this seminar, students will also critique each other's presentation skills and techniques for preparing presentation materials.

The final goal of the seminar is to produce a collection of papers summarizing each student's presentation.

#### 授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 演習の内容確認と計画
3. 発表および質疑 1
4. 発表および質疑 2
5. 発表および質疑 3
6. 発表および質疑 4
7. 発表および質疑 5
8. 発表および質疑 6
9. 発表および質疑 7
10. 発表および質疑 8
11. 発表および質疑 9
12. 発表および質疑 10
13. 発表および質疑 11
14. 演習のまとめとゼミ論文の仕上げ

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- ・発表課題についての事前学習を行うこと。
- ・毎回の授業および発表内容に関するコメントを作成する。

#### 成績評価方法・基準(Evaluation)

ゼミ論文の内容(12,000字以上)(40%) / 個別発表の準備と内容(40%) / 質問や討論、リアクションペーパーの提出などの授業への積極的な参加(20%)

#### テキスト(Textbooks)

各自のテーマに合わせて適宜指示する。

#### 参考文献(Readings)

1. 教育史学会、2018年、『教育史研究の最前線Ⅱ』、六花出版 (ISBN:9784866170428)
  2. 古田島洋介、2013年、『日本近代史を学ぶための文語文入門 漢文訓読体の地平』、吉川弘文館 (ISBN:9784642080934)
  3. 高橋 佑磨・片山 なつ、2021、『伝わるデザインの基本 よい資料を作るためのレイアウトのルール』(増補改訂3版)、技術評論社 (ISBN:9784297119850)
  4. 花井信、2000年、『論文の手法 日本教育史研究法・序説』、川島書店 (ISBN:9784761007188)
  5. 岩下誠・三時眞貴子・倉石一郎・姉川雄大、2020、『問いからはじめる教育史』、有斐閣 (ISBN:9784641150805)
  6. 下司晶・丸山英樹・青木栄一ほか編、2019、『教育研究の新章』教育学年報 11、世織書房 (ISBN:9784866860077)
- その他、適宜演習内で指示する。

#### その他(HP等)(Others(e.g.HP))

#### 注意事項(Notice)